

2021年に警察庁などが実施したシートベルトの着用状況の調査結果が発表されました。一般道路の着用率は運転者は99・1%、助手席同乗者は96・7%、後部座席同乗者は42・9%でした。

た。高速道路等では運転者

99・6%、助手席98・9%、後部座席75・7%でした。いずれも後部座席同乗者の着用率が低くなっており、今後、着用を高める対策が必要です。シートベルト着用・未着用

全座席シートベルトを着用しよう

の場合を比べると、交通事故の致死率は、およそ15倍、車外放出による致死率は約22倍とされています。シートベルトを確実に着用していれば、被害を大きく軽減することができ

ます。

「あの時、シートベルトを締めておけばよかった」と後悔しないためにも、全座席のシートベルトの着用を徹底しましょう。官民一体となった対策を推進しましょう。



交通安全30メモ